

おらほの病院

（あたたかな医療をめざして）

諏訪中央病院 リレーコラム

117

安全な透析を続けるための 安心な1泊2日の シャント手術

腎臓の働きが低下した患者さんにとって、血液透析は日々の生活と命を支える大切な治療です。日本では約30万人、長野県でも約5000人の方が治療を受けながら生活しています。当院でも150人を超える患者さんを支えています。

この透析治療に欠かせないのが「シャント」です。シャントは、透析に必要な血液を体外へ導き、きれいにしたうえで体内へ戻すための血液の通り道です。多くは、腕の動脈と静脈を手術でつなぎ合わせて作成します。ただし、シャントは一度作れば永久に使えるわけではありません。長く使ううちに血管の内側が狭くなって血流が不足したり、血管壁が弱くなって瘤のように膨らんだりすることがあります。こうしたトラブルは、透析を安全に続けるうえで見過ごせません。

狭くなった部分には、風船で血管を広げるシャントPTA（経皮的血管形成術）治療が行われます。一方で、何度治療しても十分に広がらない場合や、血管の拡張・変形が進んでいる場合には、手

諏訪中央病院 乳腺・血管外科

やま なか やす し
医師 山中 康詩



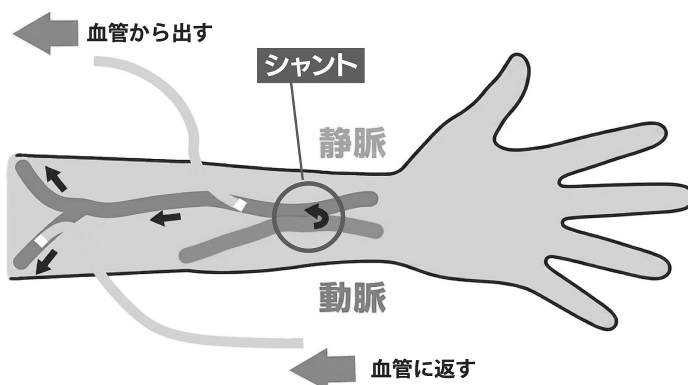
山中 康詩（やまなか・やすし）
乳腺血管外科 医師。平成18年東京大学文学部卒業、平成24年東京医科歯科大学（現・東京科学大学）医学部卒業。長野赤十字病院、東京都済生会中央病院を経て、令和4年8月より現職。

術による修復が有力な選択肢になります。

当院では2021年より、透析導入患者さんのための初回のシャント造設手術だけでなく、維持透析患者さんのためのシャント修復手術にも、積極的に取り組んできました。患者さんごとの血管の状態に応じて、ご自身の静脈を活かす方法、人工血管を用いる方法などを組み合わせ、その後も安全に透析を続けられる造設・再建を目指しています。シャント手術は短期入院を基本としています。麻酔科の協力により十分な鎮痛を行い、術後の出血や腫れといった合併症にも注意

しながら経過を観察します。そのため、不安を抱えたまま手術当日に帰宅する必要はありません。

PTA治療は日帰りで行われることが一般的ですが、手術では術後の確認が必要になる場合があります。一方で、透析患者さんはもとより週3回、半日程度を透析のために病院で過ごしていることも少なくありません。だからこそ、入院期間が必要以上に長くせず、1泊2日を基本としています。「手術が必要と言われたが、日帰りは少し不安」という方にも配慮し、安心して治療を受けていただけるよう努めています。



シャントの仕組み

当院では手術だけでなく、造影剤を用いたPTA治療、さらに造影剤を使用しない超音波ガイド下PTA治療にも対応しています。血管の状態に応じて治療法を検討し、透析を続ける患者さんの生活を支えられるよう、一人ひとりのシャントを守る治療に取り組んでいます。

次回は7月5日掲載予定
（題字は鎌田實名誉院長）